

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	東村観光産業人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成26年～30年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	世界に通用する観光人材の育成	
事業内容	村内の観光関連事業所と連携のもと、観光入込客数の増加及び受入体制の強化を目指し、マリニンストラクターや沖縄本島で唯一のプロジェクトアドベンチャー(冒険教育)のインストラクターの技術向上・育成に取り組む。又、奄美・琉球世界自然遺産の登録に向けインタープリター(自然ガイド)の育成に取り組む。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状況	(a)当初予算額	5,700	4,600	4,220		
		(b)予算現額	5,497	4,600	3,641		
		(c)増減額(b-a)	▲203	0	▲579		
		(d)繰越額	0	0	0		
		A.計(b+d)	5,497	4,600	3,641		
		B.執行済額	4,755	4,086	3,641		
		うち交付金充当額	3,804	3,268	2,913		
		次年度繰越額	-	-	-		
		執行率(%) (B/A)	86.5%	88.8%	100.0%		
	予算の状況の説明	不要額579千円については、PAインストラクター補助員の育成において参加者が想定より少なかったため、改定契約を行ったのが主な原因である。しかし、全体的には当初の計画どおり予算を執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	①マリニンストラクター育成 ・実務研修12回 ・モニターツアー2回 ・誘客活動研修1回	目 標	(講習会8回 モニターツアー1回 先進地視察1回)	(実務研修12回 モニターツアー2回 誘客活動研修1回)	()	()	
		実 績	講習会28回 モニターツアー1回 先進地視察1回	実務研修19回 モニターツアー11回 誘客活動研修3回			
	②インタープリター(自然ガイド)育成 ・実務研修12回	目 標	()	(実務研修12回)	()	()	
		実 績	-	実務研修4回	-		
	③PAインストラクター補助員育成 資格取得講習会1回 実務研修60日	目 標	(講習会3回 実務研修120日)	(資格取得講習会 1回 実務研修60日)	()	()	
		実 績	講習会3回 実務研修111日	資格取得講習会3回 実務研修58日			
	達成 状況 説明	マリニンストラクターの育成については、委託先が東村の自然体験を推進する立場にあることから委託先の負担で実施したため、目標を大きく上回る結果となった。インタープリターの育成については実務研修2時間×12回を予定していたが、研修者の要望から負担軽減を図る目的で8時間×4日で実施した。回数では減となったが時間数では目標達成しており、研修を無事に終えることができた。PA実務研修の日数については、60日を目標としていたが実数が58日になっており当初の活動目標をおおよそ達成しており、当初の予定通り事業を終える事ができた。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度
①マリニンストラクター ・ブルーーツーリズム入込客数目標 H28年度:200人 基準:77人(H22～25平均)		目 標	入込客数 77人	インストラクター5人 入込客数400人	入込客数 200人		入込客数 2,000人
		実 績		インストラクター5人 入込客数1,295人	入込客数 2,061人		
②インタープリター(自然ガイド) ・東村認定ガイド 1人		目 標	認定ガイド 1人	-	認定ガイド 1人		
		実 績		-	認定ガイド 0人		
③PAインストラクター ・インストラクター補助員 4人 ・PA入込客数目標 H28年度:4,000人		目 標	入込客数 4,000人	インストラクター 1人 PA入込客数5,500人	インストラクター 補助員 4人 PA入込客数 4,000人		入込客数 4,500人
		実 績		インストラクター 1人 PA入込客数7,385人	インストラクター 補助員 6人 PA入込客数 5,413人		
進捗 状況 説明		マリニンストラクター育成については、目標数値について大きく上回ることができた。インタープリターの育成については、成果目標としては未達成であるが、世界自然遺産登録へ向けて、やんばる3村(東村、大宜味村、国頭村)で足並みをそろえたガイド制度を作成中である。全国規模での資格であるNEAL(全国体験活動指導者認定委員会が認定する自然体験活動指導者登録証)を5名が取得し、本事業の目的を事実上は達成できた。PAインストラクターの育成については、成果目標を達成しており、当初の予定通り事業を終える事ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(1) 育成者のさらなる技術スキルアップに繋げるため、研修のバージョンアップが必要である。 (2) 一定のスキルをもったインストラクター等を育成するためには、継続的な育成支援が必要である。 (3) 育成者を多数育てたいが人材が不足しているので、村外から人を呼び込む必要がある。	(1) 育成者のスキルアップを図るため、人材育成等の研修をバージョンアップしながら継続的に実施していくことが必要。育成者が就職した後も、研修を受講できる体制の構築、より高度な研修内容の検討を行い、安心・安全を提供できるよう取り組んでいく。 (2) 短期・単発的な研修だけでなく、レベルに応じた研修を実施し、育成者の技術向上に努める。 (3) 育成者を多数育てるため、村外からも人を呼び込み移住させ、地域活性化並びに産業の振興にも繋がるよう取り組む。
今後の取り組み方針		
・事業実施により、PAインストラクター補助員の育成や全国体験活動指導者認定委員会が認定する自然体験活動指導者登録証「NEAL」、オープンウォーターライセンス、水難救助員資格を取得することができた。今後も奄美・琉球世界自然遺産登録へ向け、人材育成を継続的に実施し、育成者のスキルアップ及び雇用の創出が図られるよう継続的に実施したい。人材不足という課題もあるが、同時にターン、Uターンなどの定住促進を図りながら観光産業の整備を進めていく。 ・インタープリターの育成については、世界自然遺産登録へ向けて、やんばる3村(東村、大宜味村、国頭村)で足並みをそろえたガイド制度を作成する必要がある、ガイド資格要件に「NEAL」取得を条件とするなど、関係機関等と認識の統一を図りながら推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
3,641	3,641	2,913	728	0
東村 3,641千円 委託料 2,020千円 NPO法人東村観光推進協議会 2,020千円 マリンインストラクター育成に関する委託 委託料 961千円 東村ふるさと振興株式会社 961千円 PAインストラクター育成に関する委託 委託料 660千円 株式会社 プロジェクトアドベンチャー 660千円 PAインストラクター育成に関する講習会委託				
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○事業の性質及び目的が競争入札に適しないことから、企業組織、実績、知識等を勘案し、随意契約を締結した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○活動目標・成果目標をほぼ達成しており、予算規模は適正であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費用、使途については完了検査にて確認、適正であった。

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	東村の魅力PR事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(オ)	
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	H26~30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	産業間連携の強化		
事業内容	観光、特産品、移住等に関する東村の魅力を大々的にPR活動を行い本村への誘客に繋げる活動を展開する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,370	7,820	24,320		
		(b) 予算現額	6,011	7,820	23,320		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 359	0	▲ 1,000		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	6,011	7,820	23,320		
	B. 執行済額		6,000	7,820	23,320		
	うち交付金充当額		4,800	6,256	18,656		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		99.8%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		今年度は、これまで行ってきたPRイベントに加え、観光ガイドブック、ガイドマップ、PR用ノベルティグッズの制作及びPR用写真・動画の撮影業務も行った事から、大幅な予算増により実施した。 本事業に関してはプロポーザル形式により業者選定を行い、予算を全額活用したため、不用額は発生しなかった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	村外でのPRイベントの開催 1回 村内でのPRイベントの開催 1回	目 標	(村外イベント 1回 村内イベント 1回)	()	()	()	
		実 績	村外イベント 1回 村内イベント 1回				
	東村PRグッズ製作	目 標	ガイドブック 10,000部 ガイドマップ10,000部 グッズ 13,000個 写真・動画 一式	()	()	()	
		実 績	ガイドブック 10,000部 ガイドマップ 10,000部 グッズ 13,000個 写真・動画 一式				
達成状況説明	ガイドマップ、ガイドブック、ノベルティグッズに関しても予定どおり制作でき、観光関連施設への配布や村の祭り等で活用できた。 写真・映像の撮影に関しては、本村の星空や、ダイビングポイントとして有望な海の資源など、新たな魅力の発掘に繋がる成果が得られた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	村外でのPRイベント来場者数4,000人	目 標	()	(3,000人)	(4,000人)	()	()
		実 績		12,171人	7,503人		
	村内でのPRイベント来場者数500人	目 標	()	(-)	(500人)	()	()
		実 績		-	400人		
	進捗状況説明	村外PRイベントは目標集客数を達成でき、本村のPRに繋げる事が出来た。次年度以後も場所や内容を変えながら実施して行く。 村内PRイベントに関しては、台風接近のため、当初予定の9月17日から10月2日に延期したが、変更日も荒天候となり、体験イベントの変更や中止、集客への影響が出た。来場者は目標を下回る400人となった。 ノベルティグッズを制作した事により観光、特産品等に関する本村の魅力を手軽に分かり易く紹介する事が出来た。また、プロの写真家や映像業者に写真や映像の撮影を依頼した事により、村の新たな魅力を感じることでできる写真や映像を残す事ができた。今後はこれらの素材を十分に活用し、本村の魅力PRに繋げていく。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）										
	国内有数のパインアップルの産地である本村では、生のパインアップルの試食・販売が最も有効なPR手段の1つとなっているため、イベントは夏場の開催が必須となる。しかし、その一方で台風等の悪天候による延期や中止のリスクも高いため、今後は室内での開催も視野に入れた会場選定が必要である。	村外でのPRイベントに関して、これまで那覇市国際通り周辺を中心に会場選定を行って来たが、今後は県外を含めた他地域での実施も検討する。 会場選定やイベント内容について、PR対象となるターゲットを明確にする事で、効率的なPR活動の更なる向上を図る。 村内でのPRイベントが悪意天候により目標値を達成できなかったことから、計画の時点でできる限り天候の影響を受けにくい内容となるよう改善を図る。										
今後の取り組み方針												
これまでの取組により、毎年のPRイベントを継続しながら、イベント用品やノベルティーグッズ、画像・映像等、徐々に必要な物を揃える事ができた。 今後はこれらの物を活用しながら、本村の魅力PRに繋げていく。 写真・映像の撮影と平行して、ダイビング等に活用可能なポイントの確認を行ったところ、有望なポイントが数カ所確認できた。また、都市部では見ることの出来ない星空が大きな可能性を秘めた資源であることが確認できた。これらの成果を踏まえ、今後の新たな観光プログラムの開発に繋げたい。												
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)												
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>23,320</td><td>23,320</td><td>18,656</td><td>4,664</td><td>0</td></tr></table> 東 村 23,320千円 委託費 5,320千円 (株) サン・エージェンシー 5,320千円 村外・村内PRイベント 委託費 18,000千円 (株) 正広コーポレーション 18,000千円 観光ガイドブック・ガイドマップ ノベルティーグッズ 画像・映像撮影			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	23,320	23,320	18,656	4,664	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費								
23,320	23,320	18,656	4,664	0								
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明									
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○プロポーザル形式により業者選定を行い、妥当であったと考えている。									
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○活動目標・成果目標をほぼ達成しており、予算規模は適正であったと考える。									
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途についてはプロポーザル企画書内で積算資料の確認、実施報告での支出内容の確認を行っており、必要なものであったと判断した。									
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。										

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	東村ダムツーリズム推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成27~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	沖縄県最大の福地ダムの湖面等を活用したプログラムをさらに推進するため、ダムツーリズムプログラムの基本計画を策定する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,500	5,500			
		(b)予算現額	2,500	5,292			
		(c)増減額(b-a)	0	▲208			
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	2,500	5,292			
	B.執行済額		2,484	5,292			
	うち交付金充当額		1,987	4,233			
	次年度繰越額		—	—			
	執行率(%) (B/A)		99%	100%			
予算の状況の説明		不用額208千円については委託の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	法規制等諸条件の整理	目 標	(調査)	(法規制等諸条件の整理)	()	()	
		実 績	資源等の調査実施	福地ダムツーリズムに係る諸計画の把握			
	観光スポットの選定	目 標	(観光スポットの検討)	(観光スポットの選定)	()	()	
		実 績	現地調査の実施	現地踏査及び重点地区の設定			
	プログラムの内容計画	目 標	(プログラム内容検討)	(プログラムの内容計画)	()	()	
		実 績	現地調査の実施	モデルコース案の策定10コース			
	管理、運営方法(利用ルール)の作成	目 標	(管理・運営方法(利用ルール)の検討)	(管理、運営方法(利用ルール)の作成)	()	()	
		実 績	湖面利用におけるルール調査を実施	ツアー事業者と意見交換の実施			
	実施に向けて必要な施設等の選定	目 標	(施設等の検討)	(実施に向けて必要な施設等の選定)	()	()	
		実 績	現地調査による確認	必要施設の把握及び配置の検討			
	実施に向けての課題等の取りまとめ	目 標	(—)	(実施に向けての課題等の取りまとめ)	()	()	
		実 績		ツアー事業者と意見交換の実施			
達成状況説明	・福地ダム周辺の国立公園指定や北部訓練場一部返還に係る規制等を整理し、基本計画書に記載し、目標を達成することができた。 ・専門家の現場踏査を行い、観光スポットとして魅力のある場所を重点地区と位置付け、目標を達成することができた。 ・ツアーのターゲットや所要時間等を整理し、10コース分のモデルツアーを策定し、目標を達成することができた。 ・利用ルールについてツアー事業者と共に課題の取りまとめを行った。また周辺地域が国立公園に認定されたことを受け、森林ツーリズム事業と利用に関する協議を行う予定であり、策定期間を延期した。 ・モデルコース案を策定し、それに対し必要となる便益施設を基本計画書に記載し、目標を達成することができた。 ・運営主体やツアー事業者との意見交換を行い、課題について基本計画書に記載し、目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	基本計画の策定完了	目 標	()	(調査報告書)	(基本計画書の策定)	()	()
		実 績		調査報告書の作成	基本計画書の策定完了		
進捗状況説明	ダムの西側2箇所と東側2箇所を重点地区と設定した。 今後は策定したモデルコース案に便益施設が整備できるか検討する。 北部訓練場が返還され、フィールドが広がった部分について調査が必要であるか検討する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成28年9月に国立公園指定を受け、今後は世界自然遺産登録等への動きがある。 また、福地ダム周辺を含む北部訓練場は米軍専用施設と日米地位協定に基づく共同使用の範囲からなるため利用が制限されるが、平成28年12月に4,000ヘクタールが返還されたため、ダムツーリズムとしてのフィールドが広がった。 現在ツーリズムのフィールドとして使用していない場所なので、ガイドが少ない。	国立公園に指定されたこと、世界遺産登録等への動きがある中で、環境に配慮した形でのツーリズムを実施する必要がある。 また、福地ダム周辺を含む北部訓練場は米軍専用施設と日米地位協定に基づく共同使用の範囲からなるため、一部返還等があった4,000ヘクタールの土地に追加の調査や踏査が必要になってくると考えられる。 地域との深い繋がりがある場所なので、地元ガイドの養成をおこなう必要がある。
今後の取り組み方針		
国立公園に指定されたこと、世界遺産登録等への動きがある中で、環境に配慮した形でのツーリズムを実施するため関係市町村及び関係機関等と調整を図り取り組んでいく。また、福地ダム周辺を含む北部訓練場一部返還等があった4,000ヘクタールの土地について追加調査や踏査の実施を検討する。 H29年度・・・基盤整備 H30年度・・・ダムツーリズムの実施		

資金の流れ																
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象 事業費</th><th colspan="2"></th><th rowspan="2">交付対象 外経費</th></tr> <tr> <th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th></tr> <tr> <td>5,292</td><td>5,292</td><td>4,233</td><td>1,059</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費	交付金 充当額	市町村 負担金	5,292	5,292	4,233	1,059	0
総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費												
		交付金 充当額	市町村 負担金													
5,292	5,292	4,233	1,059	0												
東村 5,292千円 → 委託料 5,292千円 → 有限会社 MUI景画 5,292千円 〔 プログラム実施に向けて基本計画を策定 〕																
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入力で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。													
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	東村花いっぱい運動推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成26年～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	地域の景観や魅力向上のため、花いっぱいの村づくりを推進し、東村むらぐるみ花いっぱい運動への参加促進に向けた施策を展開する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,000	4,000	4,000		
		(b) 予算現額	4,000	4,000	3,775		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 225		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	4,000	4,000	3,775		
	B. 執行済額		3,868	3,908	3,775		
	うち交付金充当額		3,094	3,126	3,020		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		96.7%	97.7%	100.0%		
予算の状況の説明		増減額▲225円については、事業内容の精査に伴い不用額が発生したが、おおよそ当初の計画どおり予算を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	村内主要幹線道路沿いへのプランターの設置	目 標	(250)	(200)	(200)	()	
		実 績	250	200	250		
	花いっぱい運動ボランティア作業	目 標	(—)	(—)	(550人)	()	
		実 績	—	—	562人		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	目標を達成したことで、村内の景観向上が図られ、観光地のイメージ向上に繋がる取組みとなった。また3年間、各種団体と連携し取り組んできたことが、村民への理解が得られ関心が深まったものと考えられる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (H26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (30年度)
	・花いっぱい運動ボランティア作業参加者 目標 (基準:H26年 418名 H28年目標 550名)	目 標	418名	(400名)	(500名)	(550名)	
		実 績		418名	478名	562名	
		目 標		()	()	()	
		実 績					
進捗状況説明	3年間、各種団体と連携し取り組んできたことや村民への周知等がしっかりとできていたため、前年度を上回るボランティア参加人数となった。本事業に関する村民への理解が得られ関心が深まったものと考えられる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・一年をとおして花いっぱい村づくりを推進するために、村内各種団体と連携して幹線道路沿いへのプランター設置や、花の植え付け作業などを行った。 ・事業推進には地域ボランティアの参加が必要である。 ・草花の選定及び植え付け場所の検討。 ・県内各事例を調査し、視察を行う。	・継続的な維持管理の作業が重要であることから、作業の効率化等の検討が必要である。 ・各字区長と連携し、各地域でのボランティア作業の推進を図り、植え付け場所や草花の選定を実施する。
今後の取り組み方針		
これまでの取り組みにより、3年間で最大のボランティア参加数となった。花いっぱい運動ボランティア活動への理解が得られ関心が深まったものと考えられる。補助事業としては終了となるが、東村のイメージ向上、観光誘客を図るため、来年度も引き続き、単独予算で実施していく。また、県内各事例を調査し本事業の発展へ繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>3,845</td><td>3,775</td><td>3,020</td><td>755</td><td>70</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,845	3,775	3,020	755	70
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,845	3,775	3,020	755	70										
東 村 3, 775千円 → 補助金 3, 775千円 → 東村むらぐるみ花いっぱい推進協議会 3, 775千円 東村花いっぱい運動推進事業実施への補助 ・交付対象外経費 70千円														
資金 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施実行委員会への支出であり、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○活動目標・成果目標をほぼ達成しており、予算規模は適正であったと考える。不用額については、前年度に使用した消耗品のな物が再利用可能だった結果、発生したものである。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については完了検査にて確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	沖縄やんばるアドベンチャーラリー推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成26年～28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	東村の豊かな自然をフィールドにトレイルランとシーカヤックを活用した「沖縄やんばるアドベンチャーラリー」を開催する。当該イベントを開催し観光誘客を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,945	3,000	2,500		
		(b) 予算現額	3,945	3,000	2,500		
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計(b+d)	3,945	3,000	2,500		
	B. 執行済額		3,945	3,000	2,500		
	うち交付金充当額		3,156	2,400	2,000		
	次年度繰越額		-	-	-		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初の計画どおり予算を執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	沖縄やんばるアドベンチャーラリーの実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実 績	実施	実施	実施		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
	達成 状況 説明	アドベンチャーラリーは3つの特性(①チームスポーツ、②カヤック、トレッキング、自転車、シュノーケルなどの複合アクティビティ、③オリエンテーリング(地図読み)から成り立っており、③のオリエンテーリングは地図を読みながら各ポイントを周っていくため、毎年コースを変える必要がある。今回も新しい施設や地元の喫茶店などを利用し、東村内の新しい観光スポットを県内外の参加者に周知することができ、誘客効果の成果があったと考える。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (H26年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (30年度)
	大会参加者目標435名 うち県外50名	目 標	418名	(210名 うち県外20名)	(435名 うち県外50名)	(435名 うち県外50名)	
		実 績		395名 うち県外36名	420名 うち県外19名	322名 うち県外13名	
		目 標					
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	今回は参加人数322名・達成率74%となった。平成27年度の実績後、自立への手応えがあり、自立へ向けてチャレンジクラス、フレンドシップクラス共に参加費の値上を行った。その影響もあって参加者減となった。しかし、奄美・琉球世界自然遺産登録を目指すなか東村の推進するエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムと各観光施設を組み合わせた新たなプログラムの1つが完成できたことは大きな成果といえる。これまで3年間の経験で学んだノウハウを活かし平成29年度も単独予算で実施し観光誘客を図りたい。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・本事業は誘致の面では一定の効果があつたが、県外からの参加者が少なかった為、本事業の普及を図る、宣伝活動等を再検討し、実施していく必要がある。 ・本事業は、東村の豊かな自然をフィールドにトレイルランとシーカヤックを活用したアドベンチャーレースであり、該当イベントの実施、普及を図る。	今回も県内の人気が高く参加者が多かった。今後は県外からの参加者増員の計画を再検討する必要がある。県外への周知強化に努める。
今後の取り組み方針		
これまでの取り組みにより、東村の推進するエコツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムと各観光施設を組み合わせた新たなプログラムの開発と専門業者から大会運営に関する知識を学ぶことができた。補助事業としては終了となるが、奄美・琉球世界自然遺産登録へ向けて来年度も実施し、新たなプログラムの開発や本村の観光誘客へ繋げ、観光産業の整備を進めていきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>5,111</td><td>2,500</td><td>2,000</td><td>500</td><td>2,611</td></tr> </table> 東 村 2, 500千円 → 補助金 2, 500千円 → やんばる東村 アドベンチャーラリー実行委員 2, 500千円 イベント開催に係る経費の補助 交付対象外経費 2, 611千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,111	2,500	2,000	500	2,611
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,111	2,500	2,000	500	2,611										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施実行委員会への支出であり、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○自立へ向けた参加料の値上げの影響で参加者が減となったが、前年度に対する目標設定があつた為、予算規模は適正であつたと考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○大会参加者から参加料を徴収している。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、使途については完了検査にて確認、適正であった。											

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	東村つつじ祭り強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成27~31年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	東村つつじ祭りは、村民相互の連携と地域活性化を図ることを目的に開催され、沖縄花のカーニバルとして定着している。東村つつじ祭りを一層充実させる為に、つつじ園内夜間ライトアップ及び、ステージイベントの強化を図る。						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(b) 予算現額	4,000	4,000			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	4,000	4,000			
	B. 執行済額		4,000	4,000			
	うち交付金充当額		3,200	3,200			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
	予算の状況の説明		当初の計画どおり予算を執行できた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	・園内ライトアップの実施 ・ステージイベントの実施	目 標	(実施)	(実施)	()	()	
		実 績	実施	実施			
		目 標	()	()	()	()	
	実 績						
達成状況説明	つつじ祭り強化事業の取組として、夜間ライトアップ及びステージイベントを計画通り実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	来園者数H28年40,000人 (H26=38,000人)	目 標	()	(35,000人)	(40,000人)	()	()
		実 績		41,000人	33,300人		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	来園者については天候不良のため目標人数を達成出来なかったが、来園者へアンケート調査を実施した結果、「実際お越しになっての感想」という質問項目で約78%の方が「良かった」と夜間ライトアップ及びステージイベントに満足して頂き高評価であったことから効果があったものと考えられる。また、「ご来園の理由」という質問項目にて来場目的を把握することができ、誘客活動について再検討するなど今後の事業展開に繋げることができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村のつつじ祭りは、沖縄花のカーニバルとして定着しているイベントとなっており、つつじ祭りをの情報発信を強化し、県内外からの来園者(観光客)へ本村及び沖縄県の魅力を伝え観光振興につなげる。	・つつじ祭りの魅力を県内外問わず発信するため、関係団体と連携する。 ・日中と同様に園内全域を見て回れるよう、ライトアップ実施箇所の見直しが必要である。
今後の取り組み方針		
・つつじ祭り強化事業を継続していき、来園者の増加に向けて情報発信を強化し、開催時の天候に左右されないイベントや演出の内容を適宜改善し来園者の満足度向上に努める。その中でリピーターを増やし本村の観光振興に繋げる。また、今年度実施した結果を踏まえ、関係機関、関係者等にて検証を行いライトアップ及びステージイベント改善策について検討し今後の事業推進に繋げる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,000</td><td>4,000</td><td>3,200</td><td>800</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 東村 4,000千円 委託費 4,000千円 (株)日本広告 4,000千円 東村観光客受入体制強化事業 (東村つつじ祭り機能強化事業)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,000	4,000	3,200	800	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,000	4,000	3,200	800	0										
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式で選定しており、妥当であったと考えている。 ○事業内容、予算規模は適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	東村観光振興計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	企画観光課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	東村の観光の現状等を踏まえた観光振興の課題を明らかにし、今後の方向性を示すとともに、具体的・実践的な施策、推進プログラム等を検討することにより、本村の観光資源や観光関連施設並びに地域の産業、人材及びそのネットワーク等を効果的に連動させ、本村の観光振興を推進していくための観光振興計画を策定する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
		(b) 予算現額	4,860				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 140				
		(d) 繰越額	0				
		A. 計(b+d)	4,860				
	B. 執行済額		4,860				
	うち交付金充当額		3,888				
	次年度繰越額		-				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行を行ったが、増減額▲140千円については入札残によるものとなっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	・観光振興計画の策定(課題の整理、基本方針、基本施策の決定等)	目 標	(観光振興計画の策定完了)	()	()	()	
		実 績	観光振興計画の策定完了				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	観光振興計画を策定にあたり、計画策定委員会を5回実施し、目指すべき方向性の整理・長期的な取組となる観光戦略体系づくりを計画し、実効性・連続性のある戦略性のある計画を策定した。また、観光関連事業者とのワーキング会議では、計画の具体化に向けた、方向性、アイデア、取組みについて集中的に情報交換を行い本計画へ反映させ、課題の整理、基本方針、基本施策を決定し、計画を策定することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	観光振興計画の策定完了	目 標	()	(観光振興計画の策定完了)	()	()	()
		実 績		観光振興計画の策定完了			
	本村の現状、課題の把握	目 標	()	(現状、課題の把握)	()	()	()
		実 績		現状、課題の把握			
	今後5年間の観光振興に向けた基本施策の決定	目 標	()	(基本施策の決定)	()	()	()
		実 績		基本施策の決定			
	進捗状況説明	観光振興計画を策定するにあたり、計画策定委員会、ワーキング会議、観光関連事業者ヒアリング、実施場所や来訪者層の異なるイベントでのアンケートの実施を行い、本村の課題、目指すべき方向性の整理を行い観光動向を把握することができた。また、課題及び新たな将来像の達成へ向けた取組や行動計画の設定を行い観光業の柱としての指針となる計画を策定することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村の観光における現状と課題・今後の方向性や観光を推進するため、策定委員会、ワーキング会議等を開催し、計画を形にする具体的な方向性、本村の観光資源を活用する計画を策定することができた。 今後は本計画に基づき観光振興を推進する。	本村の観光振興の推進を確実なものとするため、観光関連事業者を中心とした協働体制を構築(仮称:東村観光推進連携会議)し、定期的な進捗状況の検証を行い事業を推進する。
今後の取り組み方針		
本計画を基に、村民一人一人が観光に携わり元気になるとともに、訪れる人々が豊かなやんばるの自然環境の中で様々な感動とロマン溢れる東村での滞在を大切に記憶して、また訪れてもらえる魅力的なサービス、ホスピタリティ・肝心(チムグクル)を育む。また、本計画の推進を確実なものとするため、東村観光推進連携会議(仮称)を設置し、組織間のネットワークづくりと情報の共有化を図り、本計画の進捗状況の確認や定期的な検討、評価、見直し等を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>4,860</td><td>4,860</td><td>3,888</td><td>972</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	4,860	4,860	3,888	972	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
4,860	4,860	3,888	972	0										
東村 4,860千円 → 委託費 4,860千円 → (株)国建 4,860千円 〔 第2次東村観光振興計画策定支援業務 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札により決定したため妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業に見合った予算規模で適正であったと考える。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	デジタル教科書整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成27~29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける教育の 推進 Ⅲ-3	
事業内容	学習環境の向上を図り、児童・生徒の学習に対する興味・関心を高めるため、デジタル教科書を小中学校に整備する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(b) 予算現額	5,417	1,988			
		(c) 増減額(b-a)	5,417	1,909			
		(d) 繰越額	0	▲ 79			
		A. 計(b+d)	0	0			
	B. 執行済額		5,417	1,909			
	うち交付金充当額		5,176	1,909			
	次年度繰越額		4,141	1,527			
	執行率(%) (B/A)		-	-			
	執行率(%) (B/A)		95.6%	100.0%			
予算の状況の説明		予算執行状況については、計画通りの内容を実施できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	村内3中学校にデジタル教科書を整備 整備する教科書 国語、社会、数学、理科、英語、技術・家庭	目 標	(小学校3校)	(中学校3校)	()	()	
		実 績	小学校3校	中学校3校			
			目 標	()	()	()	
			実 績				
達成 状況 説明	学力向上は、県の学校教育主要施策の最重要課題に挙げられており、その中で児童生徒の主体性、関心・意欲や知識を 高める等の効果があるICTを活用した授業の1つとして、デジタル教科書を整備することにより、わかりやすい授業を実施す るため、村内3中学校へ、7教科のデジタル教科書の整備を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	学習に対する興味・関心が高まった生徒 30% (生徒へのアンケートにより把握)	目 標	()	(30%)	(30%)	()	()
		実 績		84.86%	79.30%		
			目 標	()	()	()	()
			実 績				
	進 捗 状 況 説 明	村内3中学校へデジタル教科書の整備を行い、電子黒板を活用した授業を行うことで、学習に対する興味・関心が高まった。 事業実施後に、デジタル教科書を活用した授業を実施後、生徒への各教科ごとのアンケート調査を行った結果から、学習に対する興 味・関心が高まった割合から見ると、どの学年においても目標を達成できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	教科書改訂に伴いデジタル教科書を導入する際は、年度当初から生徒並びに教員がデジタル教科書を利用できるように検討する必要がある。	校内研修においてデジタル教科書の活用の向上を図り、教員同士でもデジタル教科書の使用方法について情報交換を行えるように取り組む。
今後の取り組み方針 教員がデジタル教科書を積極的に活用し、授業の質の向上を図るためにも、操作説明研修会及び活用方法等の情報交換を行うことにより、児童生徒の学力向上の推進につなげる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,909</td><td>1,909</td><td>1,527</td><td>382</td><td>0</td></tr> </table> 東村 1,909千円 ⇒ 消耗品購入費 1,909千円 ⇒ 有限会社図書教材 1,909千円 デジタル教科書購入					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,909	1,909	1,527	382	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,909	1,909	1,527	382	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、指名競争入札で行い、適正規模の執行ができています。 ○学校現場と十分調整の上、数量、内容ともに必要量を整備した。 ○費目・使途については、事業目的達成のため必要である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい個性を持った人づくりの推進		
事業内容	教育上、特別な支援を必要とする児童生徒が円滑な学校生活を送れるように、在籍する小中学校において特別支援教育支援員を配置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,149	10,666			
		(b)予算現額	10,149	7,991			
		(c)増減額(b-a)	0	▲2,675			
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	10,149	7,991			
	B.執行済額		7,580	7,991			
	うち交付金充当額		5,572	6,393			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		74.7%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画では、6人(12ヶ月)を配置予定でしたが、年度当初5人の配置を行った。支援対象児童の転入により、7月より1人を追加配置。予算額については、追加配置(9ヶ月雇用)に1人減による残であり、予算は適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	小学校 4名	目標	(2小学校:3人)	(2小学校:4人)	()	()	
		実績	1小学校:2人	2小学校:3人			
	中学校 2名	目標	(2中学校:3人)	(2中学校:2人)	()	()	
		実績	2中学校:3人	2中学校:3人			
達成状況説明	学習環境適正な保持として、教育上、特別な支援を必要とする児童生徒が円滑な学校生活を送れるように、児童生徒個々の必要性に応じ支援的な役割として「特別支援教育支援員」を配置。 当初計画では、6人(12ヶ月)の特別支援教育支援員を配置予定していたが前年度末、配置に関して審査した結果、支援員必要数が5名であったため村内2小学校3人、2中学校に2人、合計で5名配置し事業を開始したが、年度途中で中学校にて支援対象児童の転入があり、7月より1人を追加配置し、合計で6名の特別支援教育支援員を配置した。 特別支援教育支援員と学級担任が連携を図りながら個々のニーズに応じた支援を行うことにより適切な学習環境の保持ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	支援が必要な児童生徒の適切な学習環境の保持	目標		(学習環境の保持)	(学習環境の保持)	()	()
		実績		学習環境の保持	学習環境の保持		
		目標		()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	特別な支援を必要とする児童生徒の在籍する小中学校に対して6人の特別支援教育支援員を配置した。それにより、支援を必要とする児童生徒の障害の度合いに応じ、学習活動・学校生活等への効果的な支援が行えており、適切な学習環境を保持することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・特別支援教育を必要とする児童生徒は年々増加傾向にあり、支援を必要とする児童生徒のニーズも個々によって違うため、一人一人の実態や課題に対応した支援が必要とされており、特別支援教育支援員のスキルアップが求められる。 ・平成19年度の学校教育法改正により、小中学校に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒に、障害による困難さを克服するための教育を行うことが明確に位置づけられている。それにより地域の小中学校への就学を希望する児童生徒・保護者は今後増加することが予想されるので、それぞれのケースに対応できるような支援が求められる。 ・特別支援教育支援員の採用について、教員免許保持者を優先し、人格や人柄、協調性等にも配慮して採用に至ることから、人材確保に苦慮している。	・特別な支援を必要とする児童生徒のニーズに対応できるように、個々の実態や課題を理解したり、具体的な関わり方等を習得できるよう特別支援教育支援員研修会を継続して行いスキルアップを図る。 ・臨床心理士や特別支援教育巡回アドバイザー等の専門的な立場から指導助言を得られるよう取り組む。 ・特別支援教育支援員の人材確保のため、早期から教員免許保持者の情報を、各校教諭等と連携をとり、情報を共有することが必要である。
今後の取り組み方針		
・特別支援教育を必要とする児童生徒の実態が多様化しており、特別支援教育支援員の資質向上が求められているので研修会の内容を充実していく。 ・支援を必要とする児童生徒の学習環境、生活環境継続保持のため、学校と連携しその実態把握を行い、特別支援教育支援員の人材確保及び適正な支援員の配置を継続していくことが必要である。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,991</td><td>7,991</td><td>6,393</td><td>1,598</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	7,991	7,991	6,393	1,598	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
7,991	7,991	6,393	1,598	0										
東村 7,991千円 ⇒ 賃金 7,991千円 ⇒ 特別支援教育支援員 (6人) 7,991千円 特別支援教育支援員賃金 有銘小学校 2人 有銘中学校 1人 東小学校 1人 東中学校 2人														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、基本、有資格者を優先しており、雇用する際は、人格や人柄、協調性等に配慮している。 ○予算規模においては、支援が必要な児童の転入により、1人追加配置になったが、予算範囲内で執行できた。事業内容に見合った適正な規模である。 ○費目・使途については、支出等に関する書類により確認、適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	東村村民の森(つつじ園・エコパーク)施設機能強化整備事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立		
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成25~31年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	「東村村民の森基本計画」を基に、つつじ園内各施設の機能強化を図り、当該施設の活性化につなげる。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	105,776	-	6,316	40,000	
		(b) 予算現額	98,746	-	3,132	26,784	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 7,030	-	▲ 3,184	▲ 13,216	
		(d) 繰越額		-	0	0	
		A. 計(b+d)	98,746	-	3,132	26,784	
	B. 執行済額		96,956	-	3,132	26,784	
	うち交付金充当額		77,564	-	2,505	21,427	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		98.2%	-	100.0%	100%	
予算の状況の説明		入札残により不用額が生じたが、当初計画していた事業内容を実施できた。 13,216千円の不用額については、入札残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	東屋建築工事の実施	目 標	(基本計画策定)	(-)	(東屋実施設計の実施)	(東屋建築工事の実施)	
		実 績	基本計画策定	-	東屋実施設計の完了	東屋建築工事の実施	
	展望台・事務所実施設計	目 標	(-)	(-)	(-)	(展望台・事務所実施設計)	
		実 績	-	-	-	展望台・事務所実施設計	
達成状況説明	東村村民の森つつじ園の機能強化を図るため、東屋建築工事及び展望台・事務所実施設計を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	東屋工事の完了 展望台・事務所実施設計の完了	目 標	()	(実施設計の完了)	(東屋工事の完了 展望台・事務所実施設計の完了)	()	()
		実 績		実施設計の完了	東屋工事の完了 展望台・事務所実施設計の完了		
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	計画どおり東屋工事を完了し、次年度の展望台・事務所等工事に係る実施設計を行った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	綿密な打ち合わせや現場確認を行い、現場の状況と、それにより生じる支障について検証を行い、利用者が快適且つ安全に施設を利用できるよう留意した。	施設の機能強化に伴い施設利用者が快適に滞在できるようになるため、今後は観光客のニーズに応じたサービスの提供が必要である。
今後の取り組み方針		
・当該施設は本村の一大イベントであるつつじ祭りの開催場所であることから計画的な事業を展開する。また、施設利用者の満足度の向上や安全性の向上につなげる。 ・平成29年度 展望台・事務所等の建築を計画している。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>26,974</td><td>26,784</td><td>21,427</td><td>5,357</td><td>190</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	26,974	26,784	21,427	5,357	190
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
26,974	26,784	21,427	5,357	190										
東村 26,784千円 委託費 7,020千円 (有)結設計 7,020千円 (村民の森つつじ園東屋・倉庫等建築工事 調査測量設計業務) 工事費 19,764千円 (有)のうけん 19,764千円 (村民の森つつじ園東屋新築工事) (交付対象外経費 190千円)														
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○発注時に事業内容の精査を行なったことと入札残により、約33%の減額となったが事業内容に見合った適正な事業費であったと考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○活動目標・成果目標を達成しており、妥当であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	東村観光誘客施設(仮称)整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	総務財政課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	観光振興を図るため、東村が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の紹介・展示等を行う観光拠点・情報発信施設を整備する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		(a)当初予算額	5,040	15,649	36,105	458,450	
		(b)予算現額	4,940	16,092	17,820	464,964	
		(c)増減額(b-a)	▲100	443	▲18,285	6,514	
		(d)前年度繰越額	—	—	—	—	
		A.計(b+d)	4,940	16,092	17,820	464,964	
		B.執行済額	4,935	16,092	17,820	464,964	
		うち交付金充当額	3,948	12,873	14,256	371,971	
		次年度繰越額	—	—	—	—	
		執行率(%) (B/A)	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	
	予算の状況の説明	供用開始に向け施設で使用する映像コンテンツの作成並びに備品等の整備をする必要があるため委託料及び備品購入費、併せて6,514千円を増額した。 予算執行状況については、当初工事費の入札残額にて映像コンテンツの作成並びに備品等の整備をする予定であったが、映像コンテンツの内容並びに購入備品等の検討により不足した額を増額したし、計画通りの内容を実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	建築・設備・展示工事の実施	目標	(工事の実施)	()	()		
		実績	工事の実施				
	備品購入の実施	目標	(備品購入の実施)	()	()		
		実績	備品購入の実施				
	達成状況説明	東村観光誘客施設(仮称)整備の工事(建築・設備・展示)及び施設完成後運営に必要なパソコン、POSレジ、デジタル複合機、事務用の机、イス、収納書庫等の備品購入を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値
	平成29年5月の供用開始に向けた工事の完了	目標	()	(工事の完了)	()	()	()
		実績		工事の完了			
	備品購入の完了	目標	()	(備品購入の完了)	()	()	()
		実績		備品購入の完了			
	進捗状況説明	本村が輩出した人材の功績や経歴、所有品等の紹介・展示を行い、観光誘客や人材育成を図る施設を整備した。又、施設運営に必要な備品を購入した。今後は、誘客活動を進めていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	展示に関しては、本村の輩出した三顕彰者を通じて、沖縄・東村の魅力を訴求する内容となるよう、顕彰者本人及び関係者との調整を重ね最終的な展示品等の選定を行った。 展示用コンテンツの作成の為に必要となる映像資料等の内容、権利者、著作権料等について確認を行い、コンテンツの充実を図った。	施設の管理運営において公設民営を考慮し、指定管理者と業務内容及び管理運営について調整する必要がある。 施設の管理運営は少人数で行う事が前提となる為、少人数で効率よく管理運営が行えるよう留意する。
今後の取り組み方針		
本施設は県内外から賞賛されている人材の功績や経歴、その考え方を紹介することで地域の人材育成や交流人口の増加による地域の活性化が図られることが効果として期待されており、次年度以降は施設への誘客活動及び既存の村内観光施設等との連携、相乗効果が図られるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象 事業費</td><td>交付金 充当額</td><td>市町村 負担金</td><td>交付対象 外経費</td></tr><tr><td>466,614</td><td>464,964</td><td>371,971</td><td>92,993</td><td>1,650</td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	466,614	464,964	371,971	92,993	1,650
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
466,614	464,964	371,971	92,993	1,650										
東村 464,964千円 委託費 68,882千円 工事請負費 382,720千円 備品購入費 13,362千円 (株)国吉設計 11,340千円 (株)丹青社 57,542千円 (株)東開発 257,118千円 光電気工事(株)・ ヤナギ電設工業(株) JV 62,454千円 (株)丸石設備・ (有)北勇工業 JV 63,148千円 (株)ジムキ文明堂 13,362千円 交付対象外経費(備品購入費) 1,650千円 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 建築工事等監理業務 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 展示設計施工業務 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 建築工事 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 電気工事 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 機械工事 東村観光誘客施設(仮称)整備事業 備品整備														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託及び工事の事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で指名業者を選定し、入札で契約の相手方を決定しており妥当であったと考えている。 ○映像コンテンツ並びに購入備品等の検討により不足した額を増額したが、事業内容に見合った適正な事業費であったと考える。 ○活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であったと考える。 ○費目、使途については検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。										
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	観光施設駐車場整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	総務財政課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興			
事業内容	本村最大のイベント「東村つつじ祭り」の会場である「東村村民の森つつじ園」と平成28年度整備予定の「東村観光誘客施設(仮称)」の隣接地に両施設で共同使用可能な駐車場を整備することで、観光誘客面での相乗効果と利用者の利便性向上を図る。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	64,025					
		(b) 予算現額	63,431					
		(c) 増減額(b-a)	▲ 594					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計(b+d)	63,431					
	B. 執行済額		63,431					
	うち交付金充当額		50,745					
	次年度繰越額		-					
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		▲594千円は、入札残による減額であり、当初の計画どおり予算を執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	駐車場整備工事の実施	目 標	(駐車場整備工事の実施)	()	()	()	()	
		実 績	駐車場整備工事の実施					
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
達成状況説明	駐車場整備の工事を実施した。 一般車両:144台、大型車両:4台、多目的:3台、計151台分を整備							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値	
	駐車場整備工事の完了	目 標	()	(工事の完了)	()	()	()	
		実 績		工事の完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	本村最大のイベント「東村つつじ祭り」の会場である「東村村民の森つつじ園」と平成28年度整備予定の「東村観光誘客施設(仮称)」の隣接地に両施設で共同使用可能な駐車場を整備した。今後は、誘客活動を進めていく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村最大のイベント「東村つつじ祭り」の会場である「東村村民の森つつじ園」と平成28年度完成の「東村観光誘客施設(仮称)」の隣接地に両施設で共同使用可能な駐車場を整備することで、観光誘客面での相乗効果と利用者の利便性向上を図った。	施設の管理運営において公設民営を考慮し、指定管理者と駐車場の植栽等の管理について調整する必要がある。 施設の管理運営は少人数で行う事が前提となる為、少人数で効率よく管理が行えるよう留意する。
今後の取り組み方針		
本整備箇所は、主に「東村観光誘客施設(仮称)」の駐車場として利用されるが、毎年3月に開催される本村最大のイベントである「東村つつじ祭り」の会場と隣接しており、次年度以降は両施設への誘客活動及び既存の村内観光施設等との連携、相乗効果が図られるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
63,431	63,431	50,745	12,686	0

東村
63,431千円

委託費
3,618千円

(株)名桜土質測量設計
3,618千円

(株)名桜土質測量設計
3,618千円

観光施設駐車場整備土木工事
管理業務

工事請負費
59,813千円

(有)山城建設
59,813千円

(有)山城建設
59,813千円

観光施設駐車場整備土木工事

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であったと考える。 ○費目、使途については検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	東村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①	沖縄関係戸籍の電算化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-(イ)		
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	戦後処理問題の解決			
事業内容	劣化が激しい紙ベースの沖縄関係戸籍(臨時戸籍、仮戸籍、福岡戸籍)のデータ化及び管理システムの構築。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	9,925					
		(b)予算現額	9,914					
		(c)増減額(b-a)	▲11					
		(d)繰越額	0					
		A.計(b+d)	9,914					
	B.執行済額		9,914					
	うち交付金充当額		7,931					
	次年度繰越額		-					
	執行率(%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施しており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	沖縄関係戸籍の紙ベースからの電算化	目標	(電算化の実施)	()	()	()		
		実績	電算化の実施					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	電算化が必要な紙ベースの沖縄関係戸籍(臨時戸籍、仮戸籍、福岡戸籍)合計10,200枚を電算化した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値	
	沖縄関係戸籍の電算化完了	目標	()	(電算化完了)	()	()	()	
		実績		電算化完了				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	劣化が激しい紙ベースの沖縄関係戸籍(臨時戸籍、仮戸籍、福岡戸籍)のデータ化を行う事により、劣化、毀損、滅失の危険性を回避することができた。また、管理システムにより検索や各種行政証明の発行を円滑に行えるよう整備をおこなった為、事務の効率化が図られた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	太平洋戦争により、沖縄のほとんどの戸籍が焼失した。そのため、戦災滅失した戸籍を再製する基礎となった沖縄関係戸籍だが、劣化が激しく長期保存に耐えられない状態だった。 今回データ化を行い、情報の保全が図られたと共に、管理システムにより検索や各種行政証明の発行を円滑に行えるよう整備を行った。	今回データ化した沖縄関係戸籍の検索システムにより、各種行政証明の資料を速やかに提供できるよう努めるとともに、システムを永続的に保管、管理を行う必要がある。
今後の取り組み方針		
戸籍システムが円滑に機能するように適正に維持管理を行なう。また各種行政証明の発行を速やかに行い、見出しの修正の必要が出た場合には適宜対応していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>9,914</td><td>9,914</td><td>7,931</td><td>1,983</td><td>0</td></tr></table> 東村 9,914千円 委託料 9,914千円 富士ゼロックスシステム株式会社 9,914千円 沖縄関係戸籍の電算化事業 にかかる業務委託					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	9,914	9,914	7,931	1,983	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
9,914	9,914	7,931	1,983	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は戸籍システムとの相互関連性を勘案した上で、随意契約をしており妥当と考える。(地法自治法施行令第167条の2第1項2号に基づく)											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、電算化予定枚数により見積もりを聴取しており適正である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成のために必要であり、適正であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	東村海外移住者子弟研修生受入事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア 世界との交流ネットワークの形成	
担当部課名	企画観光課	事業実施 (予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-7	
事業内容	南米2カ国(ブラジル・アルゼンチン)の東村人会の子弟(2世・3世)が村民及び県民との交流を通し、本村と移住先国との友好親善、沖縄文化の振興発展に貢献しう人材の育成、移住先国子弟とのネットワーク強化を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,610	-	-	4,152	
		(b)予算現額	2,610	-	-	3,507	
		(c)増減額(b-a)	0	-	-	▲ 645	
		(d)繰越額	0	-	-	0	
		A. 計(b+d)	2,610	-	-	3,507	
	B. 執行済額		2,397	-	-	3,507	
	うち交付金充当額		1,918	-	-	2,806	
	次年度繰越額		-	-	-	-	
	執行率(%) (B/A)		91.8%	-	-	100.0%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施できた。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・予算執行については、日本語講師の手当や研修生の日当、旅券手配やビザ申請に関する手数料等を交付対象外経費として処理した事などにより、645千円の減額が発生した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	研修生受入4人	目 標	(3人)	(-)	(-)	(研修生受入 4人)	
		実 績	3人	-	-	研修生受入 4人	
	染め物(紅型)や沖縄料理、方言(ウチナーグチ)等の沖縄文化を学ぶとともに村民及び県民との交流を実施	目 標	(-)	(-)	(-)	(沖縄文化学習等の実施)	
		実 績	-	-	-	沖縄文化学習等の実施	
達成状況説明	・計画通り実施し、日本語と日本文化、理学療法、経営、沖縄伝統文化である紅型、空手等の研修を行った。特に日本語に関してはアルゼンチンでの活動経験のある講師を招聘する事ができ、前回よりも充実した内容となった。 ・世界のウチナーンチュ大会、若者ウチナーンチュ大会及び関連イベントへの参加や、県内の世界遺産・戦跡等の研修も行い、村と移住先国との架け橋となる人材育成が行われた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値
	研修生へのアンケート数値 : 80% ・アンケート内容「今後も交流を続けたい」、「沖縄の歴史文化等に興味がでた」等	目 標	()	(80%)	()	()	()
		実 績		90%			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・研修生全員の報告書及びアンケートから、「今後も交流を続けたい」、「沖縄の歴史文化等に興味がでた」、「日本の勉強を続けたい」、といった趣旨の回答があり、研修生達の沖縄に対する意識向上が図られた。 ・研修内容の理解度が各自の日本語のレベルに左右されることから、日本語のレベルアップに向け現地村人会との連携を強化する必要がある。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・研修対象者が2世・3世の世代となっている事から、沖縄に関する知識や理解が薄くなって行く傾向にある。現地村人会のキーパーソンや過去の研修生との連携を強くして、海外移住者に沖縄に対する関心を高めてもらう取組が必要である。	・研修内容の理解度が各自の日本語のレベルに左右される事から、日本語のレベルアップに向け現地村人会との連携を強化する必要がある。 ・研修対象者が本村の情報を十分に把握した上で、研修内容の検討ができるよう、現地村人会との情報交換を綿密に行う。

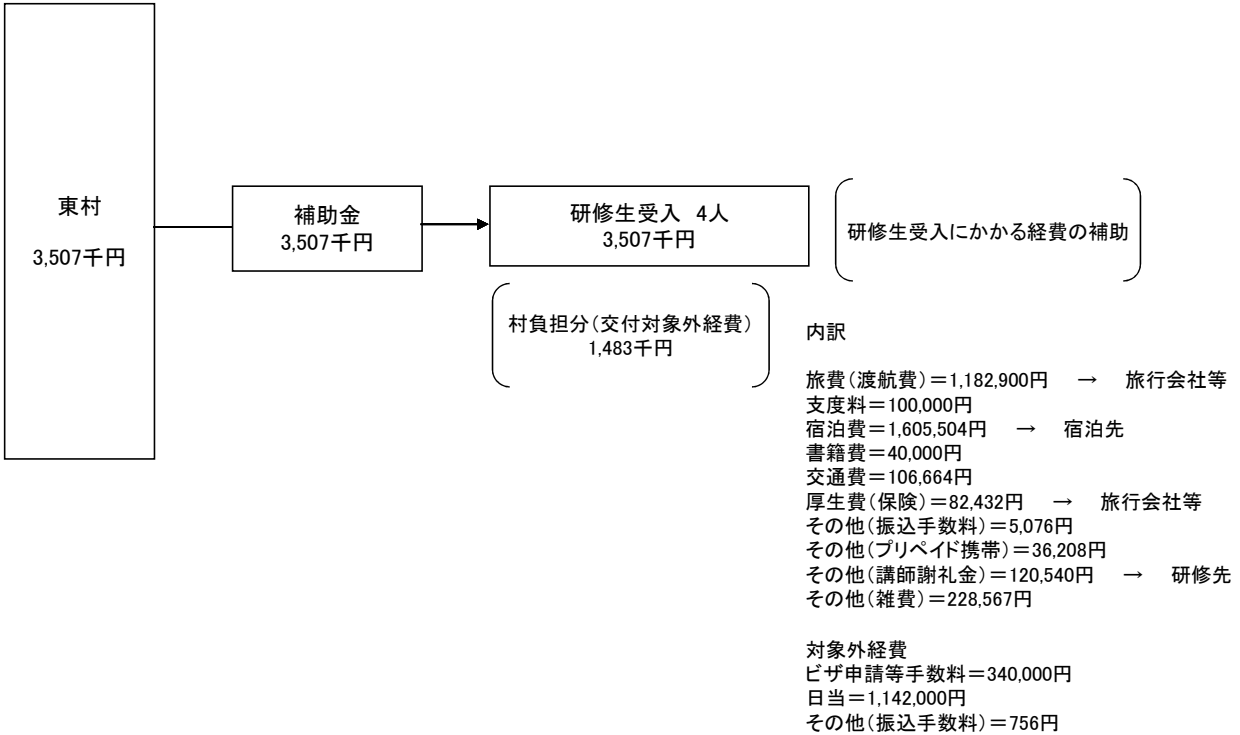
今後の取り組み方針

現地村人会との協力により、研修生の日本語能力の向上を図るとの合わせて、 現地の情報、沖縄や日本の情報のやり取りを活発に行う事で、2世・3世の方達が東村と移住国との架け橋となるよう、今後の受入事業に取り組む事が必要である。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,990	3,507	2,806	701	1,483



	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○研修生の決定については、事業実施要綱にて規定されている研修生の資格要件を備えた者を現地村人会から推薦して頂き決定している。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○経費の一部に交付対象外と判断されるものがあり、約15.5%の減額となった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金交付要綱に則り交付を行ったことから受益者負担は適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	東村台風に強い農業施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	本村の主要作物の一つであるマンゴーは、台風により被害を受けやすいことから、防風ネット等を整備し、被害の軽減を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	—	—	—	—	15,930
		(b)予算現額	—	—	—	—	15,552
		(c)増減額(b-a)	—	—	—	—	▲ 378
		(d)繰越額	15,000	—	—	—	0
		A. 計(b+d)	15,000	—	—	—	15,552
	B. 執行済額		14,700	—	—	—	15,552
	うち交付金充当額		9,672	—	—	—	12,441
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		98.0%	—	—	—	100.0%
予算の状況の説明		当初の計画どおり予算を執行できた。378千円の不用額については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	既存ハウス内への防風施設の設置	目 標	(3箇所)	(—)	(—)	(防風施設の設置)	
		実 績	3箇所	—	—	防風施設の設置	
		目 標	()	()	()	()	
実 績							
達成状況説明	既存マンゴーハウスへの防風ネット(2重カーテン)を6,750㎡(6棟・4農家)整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値
	防風施設の設置完了4箇所	目 標	()	(4箇所)	()	()	()
		実 績		4箇所			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗状況説明	既存マンゴーハウスへの防風ネット(2重カーテン)を4箇所に設置した。施設整備が完了し、台風等の自然災害に強い安定した生産基盤が確保できた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・施設の利用状況について確認するため、事業実施主体をととして栽培状況を報告させ、施設利活用について検証していく。 ・台風による果実及び樹木への暴風被害の軽減効果を検証していく。(台風襲来時検証)	- 安定した生産基盤が確保できたことから、今後は栽培技術の向上を目指し、研修会や現地検討会を開催し、品質及び生産向上を図る。 ・台風時の施設管理について、適切な対応を行うよう事業主体へ 指導していく。また、事業主体より受益者に対し施設管理指導を徹底する。 ・施設利用者から栽培状況の聞き取り等を行い、利用してみでの施設の改善点などを把握していく。
今後の取り組み方針		
・施設の利用状況についてフォローアップを行い、研修会等で栽培技術の向上を図っていく。 ・事業を検証し他農家への普及を図っていく。 ・施設を整備したことにより台風等の自然災害に強い安定した生産基盤が確保でき、品質及び生産の向上が効果として期待されており、次年度以降は栽培技術等の研修会等を実施することにより、更なる品質や生産向上が図られるよう取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費		交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
17,700		15,552	12,441	3,111
				交付対象 外経費
				2,148
東村 補助金 15,552千円 → 東村園芸等作物産地協議会 補助金額 15, 552千円 → 請負業者: 沖阪産業(株) 契約金額: 15, 552千円 防風施設の設置 4箇所整備 交付対象外経費 農家負担額 2, 148千円				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○東村園芸等作物産地協議会への支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○活動目標・成果目標をほぼ達成しており、予算規模は適正であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○農家から負担額を徴収している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費用、使途については完了検査にて確認、適正であった。

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-①	地域活動拠点活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)-イ	
担当部課名	総務財政課	事業実施(予定)年度	平成27~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	地域活動・地域行事(芸能祭等)伝統文化、芸能の場、交流の場としての利活用が図れる施設を整備することにより、地域活性化また都市との交流が図れる体験・交流活動の場となる拠点施設を整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,600	28,500			
		(b)予算現額	4,536	21,859			
		(c)増減額(b-a)	▲64	▲6,641			
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	4,536	21,859			
	B.執行済額		4,536	21,859			
	うち交付金充当額		3,628	17,487			
	次年度繰越額		-	-			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画どおり執行を行った。6,641千円の不用額については、入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	地域活動拠点施設の基本設計・実施設計	目標	(基本構想・基本計画策定)	(基本・実施設計の実施)	()	()	
		実績	基本構想・基本計画策定	基本実施設計の実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	高江地域の活性化を図るため、地域活動拠点施設の測量・土質・外構の設計及び基本・実施設計を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	27年度	28年度	29年度	目標値
	地域活動拠点施設の基本・実施設計の完了	目標	()	(基本構想・基本計画策定)	(基本・実施設計の完了)	()	()
		実績		基本構想・基本計画策定	基本・実施設計の完了		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	高江地域の活性化を図るため、地域活動拠点施設の測量・土質・外構の設計及び基本・実施設計の完了。 基本計画において策定した、建物の配置関係については実施設計時において建設検討委員との協議により近隣住民との距離の確保、騒音、夜間使用時における灯りの配慮踏まえ、一部配置換えを行い駐車場からもアクセスしやすい開かれた建物として計画した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	地域活動・地域行事(芸能祭等)伝統文化、芸能の場、交流の場としての利活用が図れる施設を整備することにより、地域活性化また都市との交流が図れる体験・交流活動の場となる拠点施設を整備することを目的に平成28年度においては、地域活動拠点活性化施設整備事業測量設計委託業務において、測量業務及び土質調査、外構・駐車場実施設計を行った。また、地域活動拠点活性化施設整備事業建築設計委託業務においては、建築に係る基本設計及び実施設計を実施した。	平成30年の供用開始において、拠点施設が効率よく活用等が行えるよう指定管理を予定している高江区に対し、関係団体等も含めて密にフォローアップをしていく必要がある。
今後の取り組み方針		
平成28年度において完了した実施設計を基に、平成29年度は地域活動拠点施設の建築工事を行う。 平成30年度より供用開始し、高江区に指定管理を予定している。本施設は、地域活性化また都市との交流が図れる体験・交流活動の場となることが効果として期待されており、利活用方法は、地域や各種団体が伝統芸能(芸能祭等)や各種行事、地域文化の継承・保護による取組や村外の方も受入れ、お互いの地域同士の情報交換や交流の場が図れるよう有効に活用していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費		交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金
21,859		21,859	17,487	4,372
				交付対象 外経費
				0
東村 21,859千円 委託料 21,859千円 (有)丸吉測量設計 7,171千円 (株)都市建築設計 14,688千円 地域活動活性化施設整備事業 測量設計業務 (測量・土質・外構設計) 地域活動活性化施設整備事業 建築設計委託業務 (基本・実施設計)				
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託の業者選定は、本村指名委員会を選定した業者を指名競争入札により実施。	
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残によるもので約8.5%の減額となったが、事業内容に見合った適正な事業費であったと考える。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業年度に見合った予算規模で適正であったと考える。不用額については委託の入札残の減によるものである。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使余については、検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	

市町村名	東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-①	東村総合農産加工施設機能強化基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化		
事業内容	東村総合農産加工施設の現状等を踏まえた課題を明らかにし、その方向性を示すとともに、当該施設の活性化に向けて基本計画を策定する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,921				
		(b)予算現額	12,744				
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,177				
		(d)繰越額	0				
		A. 計(b+d)	12,744				
	B. 執行済額		12,744				
	うち交付金充当額		10,195				
	次年度繰越額		—				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		不用額1,177千円については、委託料の入札残によるものであり、事業は適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	基本計画の策定 (課題の調査・整理・基本方針の決定)	目標	(基本計画の策定)	()	()	()	
		実績	基本計画の策定				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	東村総合農産加工施設は本村はもとより北部地域で生産されるパインアップル及びシークワサー等の加工施設として、平成21年から操業を行っている。施設の製造主要機械は旧工場からの移設機で対応しているもあり、製造機器不具合の増加により処理能力が十分に発揮できない状況がある。また、シークワサーの搬入量は当初計画より大幅に伸びており、それに伴い処理能力に課題も出てくる。 このような当該施設の現状を踏まえた課題の調査、整理を行い、今後の施設の活性化に向け東村総合農産加工施設機能強化基本計画の策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値
	基本計画の策定完了	目標	()	(基本計画策定完了)	()	()	()
		実績		基本計画策定完了			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	東村総合農産加工施設の現状及び課題を整理し、今後の計画を、短期、中期、長期でまとめた。短期計画では施設の製造器機能強化の計画、中期計画では生産性の向上に向け、製造機器の開発やインフラ設備強化の計画、長期計画では環境問題と省エネ対策にむけての計画となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・加工製品については、缶詰及び果汁が主力製品となっている。今回は市場の調査も行った結果、業務用の缶詰は需要が伸びているが、一般者向けの缶詰は安価な外国産で賄われており、この10年で市場にも変化がおきている。 ・消費者のニーズに対応する商品開発が必要である。 ・加工製品の原料の確保が必要である。	・消費者の食品に対する安全・安心の意識は高まっており、それに向けた取り組みも協議していく。 ・非操業季の稼働率向上を図るため、新商品の開発・販売について積極的に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針 ・東村総合農産加工施設の現状及び課題を整理し、今後の機能強化計画を、短期、中期、長期でまとめた。今後は基本計画を元に当該施設の活性化を図るため各関係機関と連携し取り組んでいく。 ・短期計画の工程スケジュールについては、施設の稼働を考慮し進めていく。 ・中・長期計画については、製造機器の技術開発及び環境問題と省エネ対策を計画していることから、定期的な協議を行っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12,744</td><td>12,744</td><td>10,195</td><td>2,549</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 東村 12,744千円 委託料 12,744千円 国吉設計(株) 12,744千円 東村総合農産加工施設機能強化基本計画策定業務					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,744	12,744	10,195	2,549	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,744	12,744	10,195	2,549	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○入札残によるもので約8.5%の減額となったが、事業内容に見合った適正な事業費であったと考える。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であったと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。た。											

市町村名	東村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	11-①	中学校空調設備設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上			
事業内容	亜熱帯気候である沖縄県は、年間を通じて高温多湿な環境が長期にわたり続くことから、生徒の学習環境を改善し授業により集中できる状況を作るため空調設備を整備する。次年度中学校統合を控える東中学校の普通教室4室(特別支援教室を含む4教室に各1基)に設置する。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
		(a)当初予算額	3,959					
		(b)予算現額	3,888					
		(c)増減額(b-a)	▲71					
		(d)繰越額	0					
	A. 計(b+d)	3,888						
		B. 執行済額	3,888					
		うち交付金充当額	3,110					
		次年度繰越額	—					
	執行率(%) (B/A)	100.0%						
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容を実施でき、予算もほぼ執行できた。							
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	東中学校の普通教室4室に空調を設置	目 標	(4教室に空調設置)	()	()	()		
		実 績	4教室に空調設置					
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
達成状況説明	統合を平成29年度に控えた東中学校において普通教室(4室)と特別教室(4室)合計8教室への空調整備の要望がある中、本年度は計画どおり普通教室(4室)へ各1基計4基の整備がなされた。今後は統合の状況を見据えながら特別教室への空調整備も検討する。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値	28年度	29年度	30年度	目標値	
	空調設備の設置完了	目 標	()	(空調設備の設置完了)	()	()	()	
		実 績		空調設備の設置完了				
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
	進捗状況説明	当初の予定どおり東中学校普通教室(4室)へ各1基計4基の整備がなされたことにより、基礎学力の向上や高校受験へのさらなる学習環境の改善ができた。学期ごとの定期テストをはじめ全国学力学習状況調査や県到達度テスト等での成績の向上が期待される。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	事業実施により夏場の学習環境の改善ができた。今後は生徒の学力向上における実績を上げるとともに、効率的で経済的に設備の活用を行っていく。特に空調を整備したことによる電気料の増加状況については、前年度比較等を行い、より良い運用に努める。	村内中学校の普通教室への空調設備の整備は完了し学習環境の改善はできたが、今後は空調未整備の特別教室(理科室・音楽室等)の環境改善を検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
今後の全国学力状況調査等の結果を蓄積整理し、事業導入後の学力向上への効果の検証を定期的に行っていく。また、平成29年度内に生徒や教職員、保護者等に設置後の状況や具体的な効果、今後の要望などを聞き取りやアンケートで調査し次年度以降の取組に反映させていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,888</td><td>3,888</td><td>3,110</td><td>778</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,888	3,888	3,110	778	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,888	3,888	3,110	778	0										
東 村 3,888千円 → 工事請負費 3,888千円 → (有)末吉電水工業 3, 888千円 〔 空調設備整備工事 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業者は、実績等を勘案し指名委員会の決定を経て指名競争入札で選定しており、事業執行上妥当であった。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○設置機器は事業目的に即した仕様となっており、妥当な規模であるとともに十分な効果が期待できる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												